



麦の栽培管理情報

令和7年11月

東部振興局生産流通部 集落営農・水田畠地化班

麦は湿害に弱い…排水対策を第一に！！

麦は耐湿性が弱く、湿害を受けやすい作物です

雨水が素早く排出されるよう排水対策をしっかり行いましょう

◆排水対策の種類とねらい

- ①額縁明渠…地表面の水を迅速に排出する
- ②弾丸暗渠…土壤内に亀裂を入れて、余剰水の縦浸透を促す
- ③圃場内排水溝…地表面の排水を促す



①額縁明渠

圃場の周囲に**深さ30cm、幅30cm程度**を目安に施工します
排水口は明渠の深さまで掘り下げ、確実に排水路につなげます



額縁明渠



端をつなげる



排水口は明渠の深さまで掘り下げる



ユンボや溝堀機で作溝

②弾丸暗渠

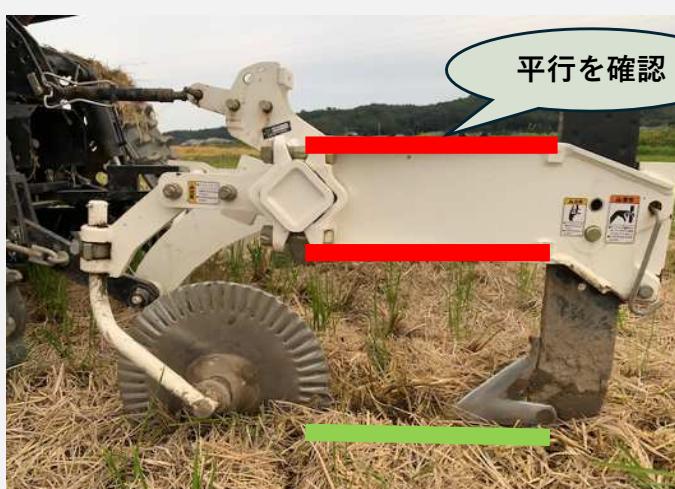
深さ30~40cmに2~3m間隔で施工します
両サイドからいれて格子状になると効果が高くなります

◆ここがポイント！

サブソイラーの**作業機が地面と平行**になるよう調整する。傾いていると弾丸がまっすぐに入らず、暗渠が崩れやすい。



深さ30cm



平行を確認



圃場に対し斜めに、反対側からも入れて、
暗渠を交差させる
(斜めにいれることで、水稻作付時に田植え機
が暗渠にはまらない)

③圃場内排水溝

額縁明渠、弾丸暗渠に加え、圃場中央に排水溝を設けると、排水性がさらに向上します
管理機で排水溝を掘り、周囲の額縁明渠につなげます



圃場中心部の表面排水溝

適期遅れの播種は、播種量を増やす！

①播種時期・播種量

麦の播種適期は11/20～25です(播種期は11/15～12/10)

遅い播種は生育量が劣り収量が下がるため、時期が下がるときは播種量を増やしましょう

◆10aあたり播種量

| 時期 | 条播 | | | 全面播 | | |
|--------|-------|--------|---------|--------|---------|---------|
| | 11/下旬 | 12/上旬 | 12/中旬 | 11/下旬 | 12/上旬 | 12/中旬 |
| 品種 | 11/下旬 | 12/上旬 | 12/中旬 | 11/下旬 | 12/上旬 | 12/中旬 |
| ハルアカネ | 6～7kg | 7～8kg | 8～10kg | 7～9kg | 8～11kg | 9～13kg |
| はるみずき | 6～7kg | 7～8kg | 8～10kg | 8～9kg | 9～11kg | 10～13kg |
| チクゴイズミ | 7～8kg | 8～10kg | 9～11kg | 8～9kg | 9～11kg | 10～13kg |
| ニシノホシ | 8～9kg | 9～11kg | 10～13kg | 9～11kg | 10～13kg | 12～15kg |

②播種の深さ

出芽数を確保するため、播種深度は3cm程度に設定します
※浅すぎ、深すぎは、苗立ちに大きく影響するので注意！

◆播種深度が浅過ぎる場合

- 乾燥条件が続くと出芽率が低下
- 播種直後土壤処理剤(除草剤)の薬害が出やすい



試し播種で
深さを確認
しよう！

◆播種深度が深すぎる場合

- 出芽が遅れ、発芽不良により苗立ちが不足
- 分けつが少なくなり、穂数を確保できずに減収する

初期除草剤(播種直後の土壤処理剤)は、播種と一貫作業で！

土壤処理剤が効果を発揮するには、**土壤表面の均一な処理層**とある程度の**水分が必要**です
丁寧な碎土を行い、**播種と土壤処理剤の散布を「一貫作業（流れ作業）」**で実施しましょう

| 薬剤名 | 使用時期 | 10aあたり使用量 | | 使用方法 |
|-----------------|----------------------------|-----------|------|---------------------|
| | | 薬量 | 希釈水量 | |
| リベレーターG (粒剤) | 播種後～麦2葉期まで (イネ科雑草1葉期まで) | 4～5kg | — | 全面土壤散布 |
| リベレーター フロアブル | 播種後～麦3葉期まで (イネ科雑草1葉期まで) | 60～80ml | 100L | 雑草茎葉散布 または全面土壤散布 |
| ボクサー乳剤 | 播種後～麦2葉期 (雑草発生始期まで) | 400～500ml | 100L | 雑草茎葉散布 または全面土壤散布 |